本記事は、BNPパリバ・アセットマネジメント(株)が、(株)日本金融通信社より利用許諾を得て転載したものです。複製・転載・転送等は禁じられておりますのでご了承下さい。

連載

2024年に新しい少額投資非課税制度（新NISA）が始まってから2年目のスタートとなる2025年1月の投信市場は、歴史的な水準の資金流入額が見られました。個人投資家の資金動向を反映すると言われるETFを除く追加型株式投信の純設定額（設定から解約・償還を引いた資金流出入額）は+2兆2,200億円（モーニングスター・ダイレクトのデータを用いた推計値）と、月間2兆円を超える資金流入となりました。投資信託協会のウェブサイトでは1989年1月まで統計データをさかのぼることができますが、過去最高だったのは2007年3月の+1兆8,800億円で、初の2兆円超えということになります。新NISAは投資枠がリセットされる1月に活用されやすい特徴もありますが、昨年1月の+1兆2,800億円と比べても1兆円近く増加しています。

投資対象別の純設定額を見てみると、昨年同様、資金流入の大部分が外国株式型に集中しています。1月の外国株式型への資金流入額は+1兆9,600億円程度で、こちらも昨年1月の+1兆1,500億円程度から大きく増加しています。その他の分類を見ると、アロケーション型（バランス型）が+1,500億円程度、国内株式型が+600億円程度と続いており、2023~2024年の株式相場の上昇などを背景に、引き続き株式への投資が中心となる商品に人気が集まっているようです。

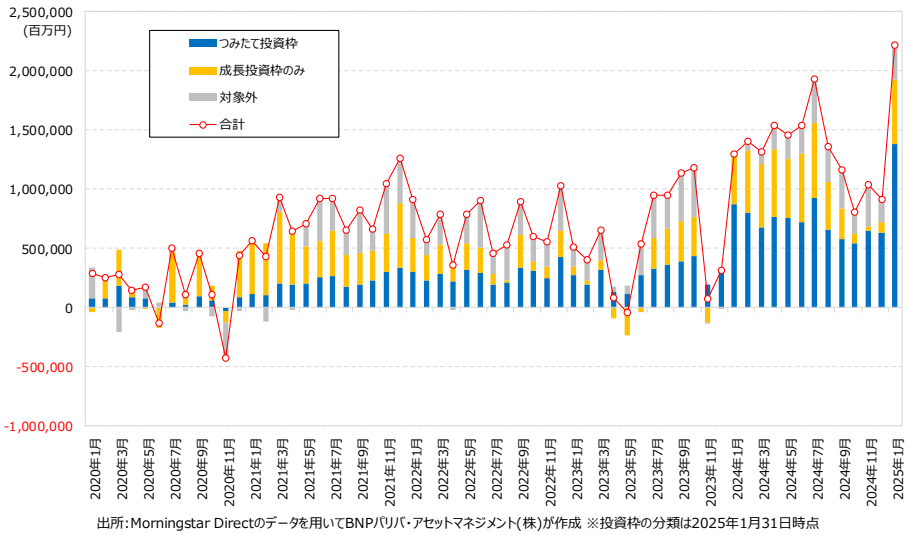
とりわけ、新NISAのつみたて投資枠の対象となっている全世界株式や米国株式を投資対象とする低コストのインデックスファンドには、この1月にも昨年をさらに上回る水準の資金流入が見られています。そこで今回は、資金流入の状況について、新NISAの対象商品の観点から確認してみたいと思います。以下、つみたて投資枠の対象商品、成長投資枠のみの対象商品、そのいずれも対象外となっている商品、の3つに分けて資金流出入を集計してみました。

グラフを見ると、つみたて投資枠の対象商品（調査時点で295本）の資金流入額が+1兆3,800億円と、圧倒的に大きな資金流入となっていることが確認できます。また、昨年は月間で+5,000億円~9,000億円台だったので、こちらも1月に水準が大きく変わっていると言えそうです。次いで、成長投資枠のみの対象商品（調査時点で1,742本）の資金流入額が+5,400億円となっています。成長投資枠のみの対象商品は、昨年8月の株式相場の乱高下を経て資金流入が急減速していましたが、年が変わって投資枠がリセットされたことなどから再び高水準の資金流入につながったものと言えそうです。そして新NISAの対象外となっている商品は、1月に+2,900億円と昨年後半並みの水準となっています。昨年1月・2月は資金流入額が1,000億円に届かなかったものの、その後は毎月分配型ファンドを中心に安定した資金流入が見られており、NISA以外での投資ニーズを反映したものと考えられます。

こうした資金動向を見ると、やはり積立投資の広がりによって、つみたて投資枠の対象商品の資金フローが高水準で安定し、さらに投資家の拡大によって積み上がってきていることが確認できます。2020年以降の5年間でもその傾向ははっきりしています。もちろん、つみたて投資枠の対象商品が一括投資に活用されるケースもあるとは思いますが、こうした積立投資の土台を大切に活用しつつ、投資家の様々なニーズに応えるソリューション提供が重要になりそうです。

（執筆：BNPパリバ・アセットマネジメント 藤原延介）

図表　ＥＴＦ除く追加型株式投信のＮＩＳＡ投資枠対象別 純設定額の推移（過去５年間）



出所：Morningstar Directのデータを用いてBNPパリバ・アセットマネジメント(株)が作成 ※投資枠の分類は2025年1月31日時点